

防災対策本部から

防火管理者 小岩 寿樹

平素からシーアイハイツ和光の防災について、ご助言、ご協力をいただき、ありがとうございます。

今年も、先月の台風により、千葉県では、多くの方々が、停電で厳しい生活を余儀なくされました。また、茨城県や福島県、岩手県では、2011年に起こった「東日本大震災」の余震ともいえる小規模な地震が頻発しております。

国の調査では、マグニチュード 7.3（シーアイハイツ和光での予想震度 6 強）の首都圏直下型地震が今後 30 年以内に起こる確率は、東京、埼玉で約 70% となっています。つまり、「地震は、いつ起こってもおかしくない」と言うのが現状です。

そこで、防災対策本部でも、日ごろの準備と、いざという時のために、今年もシーアイハイツ和光に特化した防災訓練を行い、防災への関心を高めるとともに、震災に備える啓発活動を続けて行きます。

シーアイハイツ和光は、立地条件が良く、建物も台地にあるため、台風や大雨の被害はそれほど考えられません。また、地震による地面の液状化現象もほとんど起こらないと予想されていますが、一番怖いのは「揺れ」による被害です。「揺れ」による建物の損壊や家屋火災が懸念されます。また、震度 6 となると、埼玉県や和光市の自治体、消防署の救援もあてにはできず、自分の力（自助）で、災害に立ち向かう姿勢が必要です。そのためには、日ごろからその心構えと準備をする必要があります。

幸いにも、現在のシーアイハイツ和光の建物は耐震構造になっていて、完全に崩壊するという事は考えられません。また、火災に関しても、類焼しにくい構造になっていますので、火災被害も最小限に食い止めることが出来ます。

そうは言っても、地震の揺れが収まったら、

的確な行動をしなければなりません。その時に冷静な判断をさせるのは、日ごろの心構えと準備です。

防災対策本部では、現在「震災時対応マニュアル」を作成しています。震災時の行動や備蓄リスト等を、来年の春には、皆様の家庭に配布する予定です。

大規模地震が発生したら、平常に戻るまで耐久生活をしなければなりません。生活に必要な「水」、「食料」はもちろんのこと、普段から服用している「薬品」は、命に関わる必需品です。また、家庭によっては、幼児のためのミルクやおむつなども必要でしょう。「そういうものはすでに備えてあるよ」と言われるかも知れませんが、それは、今地震が起こったらすぐ役に立つのでしょうか？

開けてみたらもう使えない、あるいは食べられないという事はありませんか？備蓄品は、ある時期が来たら、使用するか食べるか、あるいは捨てるしかありません。そのまま放っておいては、いざという時の役に立ちません。そうならないよう、常に使用し、買い替え補充するという「ローリングストック」を行わなければなりません。是非、リストを参考に、また防災関係の書物を読んで、「ローリングストック」に取り組んでみて下さい。



シーアイハイツ和光は、11 棟約 1,600 世帯の大団地ですが、首都東京の郊外という事もあり、東京に通勤する人が多く、都会特有の隣同士のコミュニケーションが希薄な部分があります。

自分の住居の両隣、上下階に住む方々をご存知でしょうか？「隣は何をする人ぞ」になっていませんか？